

# 3-3

## 現場と専門家の議論

遊びの質を高める保育のあり方

### free discussion

司会● 榊原洋一 …………… CRN 所長・お茶の水女子大学大学院教授

出席者●

河邊貴子 …………… 聖心女子大学教授

大豆生田啓友 …………… 玉川大学准教授

一見真理子 …………… 国立教育政策研究所総括研究官

磯部頼子 …………… ベネッセ教育総合研究所顧問

品川区・公立保育園長

江東区・公設民営保育園長

北区・公立保育園長

山形県・私立保育園長

幼稚園教員養成課程講師

品川区・公立幼稚園長

台東区・公立幼稚園長

江戸川区・私立幼稚園主任

### 「遊びが学びの 保育」の 実現に向けて

第3部は、これまでのプログラムに参加した先生方によるフリーディスカッションを行った。第1・2部で提示された課題などについての踏み込んだ議論を通し、「遊び」を中心とした保育をいかに充実させ、その意義を社会に広げていくか、具体的な方途を探った。

### 豊かな遊びを保障できる 保育者をどう育てるか

榊原● 皆さん、よろしくお願いいたします。遊びの質を考える上では、自由遊びと一斉遊びのバランスやあり方を考えることが欠かせないと思います。まず、この点についてのご意見をお聞かせください。

河邊● 自由遊びか一斉遊びかという二択の議論にはあまり意味がなく、形態として両方必要と言えると思います。子どもの自由な遊びの広がり、一斉遊びが上手く絡むように仕向けることが大切でしょう。

幼稚園教員養成課程講師● そうですね。1人ではできない遊びを皆で体験する中で、全体としての遊びが広がり、そこから個々の遊びに派生していく。そのように共通体験がきっかけとなり、それぞれの世界が広がることはよくあります。私の園では、自由遊びと一斉遊び、普通の遊びと行事、また生活と遊びをスムーズに行き来させることが大事だと、よく話しています。

磯部● 遊びの種類は実にさまざまですが、最低限のルールが分かっているならば、誰でも参加できるような活動は、

特に一斉遊びに向いていると言えるでしょう。

**榊原●** 子どもの姿を読み取り、遊びを展開させるのが保育者の役割ですが、第2部のワークショップでは、保育者の資質がなかなか育たないという課題が挙がりました。この点について議論を深めたいと思います。

**江戸川区・私立幼稚園主任●** 1人の保育者の経験には限界がありますから、チーム保育の視点を大切にすべきでしょう。例えば、「この先生は砂場遊びが得意だ、あの先生は木登りを教えてくれる」といったことを子どもたちが分かっていたら、それぞれの経験が生かされ、相乗効果が生まれます。保育者は、園長が知らない経験や得意分野を持っているものです。そういう長所を自分から出したいくなるような土壌をつくることで、自ずと子どもの遊びは豊かになっていくと思います。

**台東区・公立幼稚園長●** 今のお話を聞いて、それぞれの保育者の良いところを生かす保育っていいな、と思いました。チーム保育という言葉で思い出したのが、数年前、幼稚園と保育所の一体化に向けて、保育士さんと組んで保育をしたことです。この時、2人だから2倍見とれたかという、1人の子どもに同じ注意をってしまったり、2人とも見落としてしまったたりして、なかなか上手くいきませんでした。複数担任が一般的な保育士さんは、慣れているのかもしれませんが。

**北区・公立保育園長●** 公立保育園では複数担任制が一般的ですが、チーム保育は情報交換が鍵だと思います。常に2人が同時に見ているわけではないので、「〇〇ちゃんは、こうだったよ」と伝え合って共有します。こうした報告は、自分の保育を振り返る機会にもなります。保育者の組み合わせは、子どもの育成面を考え、ベテランと若手を



一緒にすることが多いです。

**河邊●** 公立幼稚園の多くは単学級ですので、経験の少ない保育者が他の学級を見て学ぶことが難しくなっています。そのため、異年齢保育を行ったり、複数の保育者がかかわって影響を与え合う場面を意識して設けることが大事です。

**品川区・公立保育園長●** 私の園では、あえて若い保育者を担任にして「あなたが頑張らないと、子どもは伸びないよ」と発破をかけました。先輩と一緒にすると、どうしても頼ってしまい、なかなか伸びないという課題をずっと抱えていたためです。すると、とても頑張ってくれて、良いクラスをつくりました。「よくやったね」と褒めると、「頑張ってたよ」と泣きながら喜び、「来年も頑張る」と言ってくれました。園長としては大きな冒険でしたが、非常に良い結果となりました。

**品川区・公立幼稚園長●** 私も園長になる前にチーム保育を経験しました。一緒に教材を研究し、異なる視点から子どもたちの姿を捉えて評価をする中で、保育者として大きな学びがありました。特に、自分とは異なる捉え方を知って見方が広がり、次につながられたことが大きかったと思います。今、私の園では、比較的経験が豊富で、自分だけで完結させられる保育者が多いのですが、他の見方を知るとさらなる工夫が

生まれますから、保育者同士が気兼ねなく学び合える仕組みをつくることを心がけています。

**江戸川区・私立幼稚園主任●** 工夫はとても大事だと、私も思います。工夫して、上手くいったり、いかなかったりという繰り返しにより、遊びは広がっていきます。ですから、保育者がいかに主体的に工夫できるようにするかを考える必要があると思います。例えば、保育者が「こんなことをしたい」と言った時、園長が「前例がない」と却下すれば、その工夫はつぶれてしまいます。そもそも工夫には失敗が付き物ですから、失敗を認められなければ、子どもの遊びは広がりません。そこに園長の役割があるのだと思います。

**幼稚園教員養成課程講師●** 保育者によって子どもの姿の読み取り方は違いますから、当然、援助の仕方も異なります。それを同じ土俵に乗せて議論することが大事と考え、保育記録をもとに「何が違ったか」「どうしたかったのか」などと話し合っています。保育や遊びの質を高めるためには、単に経験を積むだけではなく、自分の保育を振り返る視点を持つことが不可欠だと思いますので。綿密な記録を取るのが難しい場合は、園長の私が写真を撮って話し合いを促すなどの工夫をしています。

**大豆生田●** そのように一人ひとりの良さを生かし、保育者同士が学び合っ

ている園は良いですね。素敵な園は、むしろ経験年数が多い保育者ほど、若手から学んでいるものです。そういう園に実習生を送ると、「あの学生さん、とても面白かったよ」などと、学生の良いところまで見つけてくれます。そのような学び合う風土を園内に形成することが、すごく大事だと思います。

## 「遊びが保育」を実践する園で園長に求められる資質とは

**榊原●** 保育者の力を引き出し、園の風土を形成するためには園長の資質が重要であることが、第1・2部でもたびたび触れられました。ここで、園長に求められる資質や心がけについてお聞きしたいと思います。

**台東区・公立幼稚園長●** 保育者が自由に発言し、支え合える余裕のある雰囲気をつくり出すことではないでしょうか。もちろん、規範意識も大事で、ラフ過ぎるのも良くありませんが、自分の考えを安心して出せる環境はとても大切だと思います。

**山形県・私立保育園長●** 一言で表すと、「保育者の笑顔を絶やさないこと」だと思います。保育者が常に太陽のような笑顔を心がけることで、子どものみならず、保護者にも安心感を与えられます。保育者の笑顔を妨げるものを排除することが、園長の役目だと考え



free discussion



ています。

**品川区・公立幼稚園長●** 私の園でも、「笑顔」がキーワードです。子どもの笑顔をつくり出すために、まず保育者が笑顔で働ける職場をつくることを心がけています。笑顔とは、単に面白さや楽しさから生まれるのではなく、子どもと一緒に保育をつくり出していく充実感から、にじみ出るようなものだと考えています。

**品川区・公立保育園長●** 園長として、上から押さえつけるような言い方はしないように心がけてきました。保育者が自信を持ち、極端なことを言えば、「園長がいなくても大丈夫」と思えるような園をつくりたいと思っています。そんな気持ちが伝わっているのが、若手もベテランも気軽に発言し、時には私が保育者から叱られることもあります。自由な雰囲気の中で保育に専念できていると思います。

**大豆生田●** ミッションを明確にして、一人ひとりの保育者の個性を大事にする園づくりに力を注ぐことが大切でしょう。そういう園には、若手やベテランを問わず、「うちの園では——」と、しっかりと自信を持ってミッションを語る、魅力的な保育者が多いです。

**江東区・公設民営保育園長●** 園長も一保育者ですので、徹底的に保育について語り合うことが大切。常に保育者の目線と園の運営を行う園長の立場で物

事を考えています。そして大きな船に、保育者や子どもと一緒に乗り込むイメージを持ち、それぞれのポジションで役割を果たせるようにサポートする。船の舵取りは園長の役目ですから、常にアンテナを高く保つとともに、アンテナの本数も他の保育者より多く持っている必要があると考えています。

**江戸川区・私立幼稚園主任●** 私立幼稚園は、経営の面がありますから、園児獲得はもちろん大切。しかし、それが一番の目的になってはいけないと思います。保育についてしっかりとした考えを持ち、保護者や地域社会に対して丁寧に語れることが、園長に求められる資質だと思います。また、私が新任の時、園長から「俺がお前を採用した人間だ。俺が採用したのだから、お前は好きなことをやれ。責任は俺が取る」と、はっきりと言われ、安心して保育に専念できました。自分もそんな園長になりたいと強く思います。

**磯部●** 私自身は、普段は、どこか「遊び人」のような良い意味でのずぼらさを持ちながら、いざという時には責任を持って判断し、行動する園長を目指してきましたつもりです。

## 保護者や地域社会の理解と協力を得るために

**榊原●** 保護者や地域社会に対し、もっと発信が必要というお話がありましたが、そのあたりはどうお考えでしょうか。

**江戸川区・私立幼稚園主任●** 社会のイメージに迎合しないことが大事でしょう。幼稚園は、自由な「遊び」からかけ離れた一斉活動のイメージで語られることがまだ多いのですが、「それは違う」ときちんと伝えることは説明責任だと思います。いろいろな具体的な事例を出しながら、現場の保育者だけではな

く、教育学者などとも連携して説明していく必要があります。

**江東区・公設民営保育園長●** 保護者に対し、私たちがどのような気持ちで保育しているかを伝えることが大切だと思いますが、それは容易ではありません。現在の園に赴任した3年前から、「保育内容をどう伝えるか」「子どもの声をどう届けるか」について、試行錯誤しています。園としての揺るぎない方針を地道に伝えていこうと思い、お便りを工夫したり、掲示板を活用したり、ドキュメンテーションで丁寧に伝えたりしてきました。

**台東区・公立幼稚園長●** 私の園では、ここ3年ほど、ホームページでの情報発信に力を入れています。3日に1度くらいの更新で、日々の保育場面の写真とコメントをアップするうちに、「5歳の姿って、3歳とはずいぶん違いますね」とか、「何でもない遊びだと思ったけど、いろんな意味があるんですね」といった声が聞かれるようになりました。直接言葉で伝えることも大切ですが、こうした補助的な情報発信の効果も実感しています。

**北区・公立保育園長●** 保護者への説明の機会として、「ママ先生」として保護者が保育に参加する場を設けています。保育者の思いを実際の保育場面を通して伝えるのがねらいです。その他に地域社会にも発信していますが、まだ広く浸透させるまでには至っていません。

**品川区・公立保育園長●** 保育者の思いを全ての保護者に理解していただくのは不可能なことなのかもしれません。それでも、少しでも理解していただくために、担任が子どものさまざまな姿を拾って、良い学びをしていることをきちんと伝える努力をしています。

**品川区・公立幼稚園長●** 子どもの姿を通じて保育者の思いを伝えることは、私の園でも心がけています。また公立

幼稚園は地域の中にある教育的資産ですから、その意義や役割を十分に理解してもらえるように、園長として関係諸機関とのネットワークづくりに力を入れています。

**大豆生田●** 子育て支援センターなどの役割も大きいと思います。未就園児の保護者に対し、子どもの発達に大事なことなどを語れるコミュニティができると、園選びの方向が変わってきます。そういうコミュニティはまだ少ないので、今後、地域の子育て支援の場が1つの鍵になりそうです。

**一見●** 日本の保育は個々に工夫をされ、地域で努力を積み上げられています。皆さんのお話を聞いて、「ものづくりジャパン」の基礎は、徹底して遊び込むことの良さに支えられているのかなと感じました。今後、世界のモデルになり得るような素晴らしい事例を海外に発信する仕事に力を入れていく考えです。

**神原●** 今後の幼児教育を考える上で非常に有益な提案が数多くありました。今後、乗り越えていくべき課題にアプローチするための道筋が見えてきたような思いがします。どうもありがとうございました。

free discussion